少年「言いたくない」

中1殺害3少年逮捕

マスク姿 母、弁護士に付き添われ

川崎市の上村遼太君(13)殺害事件は発生から1週間を迎えた27日、急展開した。捜査本部が逮捕したのは、上村君に暴力を振るっていたとされるグループでリーダー格だった18歳の少年ら3人だ。「殺されるかもしれない」。そうおびえていた上村君。若い命を救う手だてはなかったのか。「かわいそうでならない」。現場では花束が積まれ、冥福を祈る人たちが後を絶たない。

【本記1面】

川崎署を出る、逮捕された17歳の少年の1人を乗せたとみられる車両＝27日午後3時35分

殺人容疑で逮捕された3人のうち、リーダー格の少年(18)は午前8時半ごろ、川崎市内の自宅を出た。白の上に黒っぽいズボン、マスク姿で母親と弁護士に付き添われタクシーに乗った。約15分後に川崎署に到着すると、70人以上の記者、カメラマンが待ち構え一斉にフラッシュを浴びせる中、うつむいたまま署内へ入っていった。

18歳少年は、上村君が暴力を受けていると友人に打ち明けていた年上のグループでリーダー的な存在だった。捜査本部によると、この少年は「何も言いたくありません」と供述。

17歳の2人はそれぞれ「殺していません。近くにいただけ」「殺した覚えもない」と供述している。

18歳少年から激しい暴力を振るわれていること。きっかけは万引を断ったからで、グループを抜けたいと言うとエスカレートしたこと。学校に行くなと脅されていること。「逃げられない。年上だから」「すごいやだ」とも。

友人は「何もできなくて。でも1人で立ち向かっていた」と振り返る。

上村君は殴られても、自分は手を出さなかった。周囲に心配をかけまいと「大丈夫」と言った。あざだらけの顔で、笑おうとしていた。

この友人に漏らした上村君の言葉は、泥沼に引きずり込まれまいとする悲鳴のように響く。「学校にちゃんと行って、バスケがしたい。中学校の友達と遊びたい」

× ×

河川敷の暗がりで、最後に何を思ったのだろう。川崎市の中1男子生徒殺害事件で、神奈川県警が17～18歳の少年3人を逮捕した。思春期の閉じた世界の出来事に大人たちは目を向けることができなかった。背景を追った。

学校へ行きたい 川崎中1殺害事件

届かなかったSOS

公園に集い、日が暮れるまでバスケットボールに興じていた。ゴールに向けてシュートを繰り返す輪の中に、中学1年上村遼太君(13)がいた。川崎市川崎区、昨年の夏ごろのことだ。昔ながらの住宅地に、新興のマンション群が進出しつつある。その工事の重機の音が響いている。

今年2月20日早朝、多摩川河川敷の草むらで上村君の遺体が見つかった。公園から2キロ弱の現場は今、友人らが届けた花束で彩られている。「もっと遊んでいたかったよ」。そう寄せ書きしたバスケットボールも置かれている。

こんな言葉もある。「かみそん(上村君のあだ名)へ 学校でいつも楽しそうで明るくてクラスにいないとさびしい ずっーとみんな学校で待ってるからね」

小学6年の時、島根県の隠岐諸島から転校してきた。中学では、島にいたころから大好きだったバスケ部に入った。水飲み場にいると、みんなが自然と集まってきた。年上からたばこを勧められて困っていた小学生を見たら、間に入って助けていた。

昨年秋、公園のバスケゴールからネットが取り外され、使えなくなった。異変は同じころ、秋から冬にかけて起きたようだ。上村君は夏休みが終わったころから、部活に顔を出さなくなった。

殺人容疑で逮捕された少年(18)ら年上のグループと付き合い、見かける場所はゲームセンターに変わった。今年1月8日からは学校に全く来なくなった。

不登校になっても、子どもたちは無料通信アプリLINE(ライン)でつながっている。上村君は今年に入り、友人の一人に悩みを打ち明けるメッセージを送っていた。

強引にグループに入れられ、リーダー格の

市街地整備案 賛同の声

宮古・市民説明会終了 合意形成なお課題

基本計画案が示された市民説明会。施設の防災機能や市街地への波及効果を問う声が上がった＝27日、宮古市役所

JR宮古駅南側に市役所本庁舎や防災・地域活力創出拠点の公共施設を移転集約する宮古市の「中心市街地拠点施設整備事業」の基本計画案に関する市民説明会は27日夜、同市新川町の市役所で開かれ、全8会場の日程を終えた。出席者からはおおむね事業に賛同する声が上がったが「将来的な市の財政負担を検証してほしい」といった慎重意見も。概算で112億円の巨大事業だけに、今後も丁寧な合意形成が求められる。

説明会は基本計画案がまとまったことを受け実施。同日は約50人が出席し、8会場の総数は約110人となった。出席者からは「浸水想定が示されているが洪水対策は大丈夫か」「市街地全体の活性化に向けた考えも示してほしい」との声が寄せられた。

同事業は震災の津波で市役所本庁舎が浸水し、一時孤立した経緯を踏まえ、宮古駅南側の約1・64ヘクタールに市役所本庁舎（延べ床面積9千平方メートル）、防災・地域活力創出拠点施設（同4400平方メートル）、宮古保健センター（同950平方メートル）を移転集約する。

施設は災害対策本部や一時避難者の受け入れ機能を持たせ、災害発生時の拠点となる。交流棟と行政棟を分けた分棟方式を想定。駐車場は現本庁舎と同規模の180台で、宮古駅方面と拠点施設を結ぶ自由通路（約8億円）も設置する。

現本庁舎の跡地活用や交通渋滞の解消も課題で、末広町商店街振興組合の佐藤英一理事長は「人口が減る中、市財政の健全性が保たれるか懸念がある。事業費は高額。できる限り抑えて子育てや産業振興に振り向けてほしい」と求めた。

市は基本計画を3月に決定。2015年度から基本設計に入り、建物の規模を固める。復興交付金や合併特例債を活用し、一般財源の負担を抑えるとしている。使用開始は18年度の予定。

山本正徳市長は「4市町村が合併した市域全体の拠点を考える必要がある。現在の市庁舎は10～15年後に建て替え時期が来る。合併特例債や復興交付金が活用できる今、将来に向けたまちづくりをしなくてはならない」と事業の意義を語る。

盛岡の講師 大麻所持

県立支援学校非常勤 容疑で逮捕、起訴

盛岡東署と函館税関宮古税関支署は27日、大麻取締法違反(所持)の疑いで、盛岡市上田堤1の1の10、県立盛岡青松支援学校の非常勤講師広田智史容疑者(38)を現行犯逮捕したと発表した。盛岡地検は同日、同法違反の罪で盛岡地裁に起訴した。税関支署に入った情報を基に合同で捜査していた。同署などが入手経路などを調べている。

県教委によると、広田被告は同市上田の盛岡青松支援学校に昨年4月から今年3月までの任用期間で勤務。週2、3回、高等部の英語を教えていた。2001年度から06年度までは県立高校の臨時常勤講師、非常勤講師として6校に勤務した。

県教委は懲戒処分について「本人と話し、事実確認して判断する」としている。

高橋嘉行県教育長は「児童生徒の健全な育成を担う教職員が反社会的な不祥事を起こし、心からおわび申し上げる」とのコメントを出した。

県教委によると、大麻取締法違反容疑での県教職員の逮捕は初めて。本年度の県教職員の逮捕者は3人目。

起訴状などによると、広田被告は9日、自宅で乾燥大麻約7グラムを所持したとしている。同署によると、同

ニュースファイル

◆建造物侵入と窃盗容疑で逮捕 一関署は27日、建造物侵入と窃盗の疑いで、本籍盛岡市、住所不定、無職吉田輝容疑者(34)を逮捕した。

逮捕容疑は同日午前4時ごろ、一関市内の飲食店に侵入し、店内にあった菓子1個を盗んだ疑い。同署によると、吉田容疑者は飲食店の元従業員という。

◆足場倒れ作業員が27日午後3時15分ごろ、大船渡市大船渡町の防潮堤の関連工事現場で、金属製の足場上で作業していた男性作業員(49)が足場ごと地面に転落したと工事関係者から119番通報があった。男性は市内の県立大船渡病院に運ばれ、全身に打撲を負ったが命に別条はないとみられる。

大船渡消防署などによると、男性は高さ約12メートルある足場の上から2段目(高さ約10メートル)で解体作業中で、足場全体が強風で倒れたとみられる。安全帯やヘルメットは着けていた。

盛岡地方気象台によると事故当時、同市には風雪注意報が出され、午後3～4時の最大瞬間風速は13・9メートルだった。

◆強風で鉄道に運休や遅れ 27日の県内は強風の影響で、秋田新幹線やJR釜石、花輪、東北、山田の4線、三陸鉄道南リアス線に運休や遅れが発生した。

秋田新幹線はこまち上下2本が運休するなどし、約1800人に影響。JRの在来4線では上下計15本が運休、区間運休するなどし、計約1840人の足が乱れた。南リアス線では少なくとも上下8本が運休するなどの影響が出た。

（JR盛岡支社、三陸鉄道調べ）

◆花巻で風呂場外壁など焼く 27日午後5時ごろ、花巻市大迫町亀ケ森27の40、農業佐々木岩床さん(86)方から出火。木造2階建て住家の1階風呂場外壁など約3・6平方メートルを焼いた。風呂場ボイラー付近の燃え方が強いとみて原因調査中。

（花巻署調べ）

都営住宅火災 幼児2人死亡

27日午後2時20分ごろ、東京都葛飾区亀有1丁目にある都営住宅3階の会社員上谷正輝さん(33)方から出火し、約40平方メートルを全焼した。四男煉ちゃん(4)と長女美穹ちゃん(2)が救助されたが、いずれも病院で死亡が確認された。

出火当時、部屋にはこの2人しかおらず、煉ちゃんが美穹ちゃんを守るように覆いかぶさった状態で見つかった。警視庁亀有署や東京消防庁が、出火原因や詳しい経緯を調べている。

亀有署によると、上谷さん宅は夫婦と子ども5人の7人暮らし。上谷さんは仕事に出ており、妻(31)も午後2時ごろ、買い物のため外出していた。他の子どもは登校しており、そのうち近くの学校にいた中1の長男(13)が火災を目撃して帰宅。玄関のドアを開けた際、既に炎が出ていたという。焼け跡からは複数のライターが見つかった。

紙風船

◇…九戸村の岩手銀行伊保内支店（高橋秀郎支店長）の一角を、鮮やかな和布で作られた約20点のひな飾りが彩っている＝写真。

◇…作者は近くに住む中村コヨさん(67)。貝殻を使ったおひなさまとお内裏さま、1・5メートル四方のパッチワークやつるし雛などを1年かけて作り上げた。

◇…利用客からは「かわいらしい」「雰囲気が明るくなった」と歓迎の声。高橋支店長は「銀行は地域に愛されてこそ」と、お金に代えられない「地元との絆」に感謝する。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。